

学校法人 北海道科学大学

2023年度 事業計画書

2023年4月1日～2024年3月31日



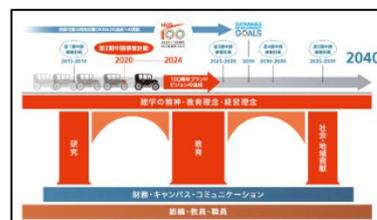
事業方針

学校法人北海道科学大学は、創立100周年を迎える2024年に向けたブランドビジョン『基盤能力と専門性を併せ持つ人材を育成し、地域とともに発展・成長する北海道No.1の実学系総合大学を実現します。』を定め、ビジョン達成のため、2020年度から5か年に亘る「第2期中期事業計画」を定めるとともに、各項目における目標達成に向けた今年度の取組みを事業計画として取りまとめました。

本法人は今後、18歳人口の減少に伴い、大学間の競争が激しくなることが予想され、Society5.0、人生100年時代に対応した人材養成が求められている中で、より良き社会の創造と持続的発展に貢献することが必須と考え、そのためには、創立から現在に至るまでの歴史と伝統に裏付けられた実績を基に、全ての教職員が共有する本法人としての進むべき理念を改めて明確に示すべく、以下の経営理念を明示しています。

新しい価値を創造する実学系教育を通じ地域社会からの期待に応え、
一人ひとりが輝く、北海道の発展に寄与する人材を育成する。

さらに、社会環境の変化を踏まえた新たな将来像・運営方針として、右記の「HUSグランドデザイン2040」を策定しました。



本法人の創立100周年へ向けた第2期中期事業計画は4年目を迎えました。私たちは今、これまで続いてきたコロナ禍における生活様式の変化に代表されるように、将来の見立てや予測が困難なVUCA(ブーカ)の時代にあります。

2022年度は、第2期中期事業計画の5か年計画である「戦略事業」の見直しや、単年度において優先的に取り組む事業として「重点実施施策」の策定を行うなど先の見えないなかでも変化に対応した事業の推進を行ってまいりました。このような中で、2021年度より開始した全学必修データサイエンスプログラムが、文部科学省「数理・データサイエンス・AI認定制度(リテラシーレベル)」に認定されました。

また、2023年4月には高校が前田キャンパスに移転したことで、大学の教育資源を活かし、生徒の多様性を育む「HUS LINKS」が高大一体教育の新たな学びとして開始、さらには100周年記念会館が完成したことで、「学ぶと人生をつなぐ」能動的学習が推進される環境が整備されるといった成果が着実に出てまいりました。

この先、創立100周年を迎える2024年度には本法人が掲げる「+Professional」人材育成のため、大学においては、全学生が受講する新・基盤能力教育プログラム「HUSスタンダード」がスタートします。系列高校から進学する場合、3年次後期に大学の科目を早期履修し、高大で単位を相互認定することができるなど、さらに充実した高大一体教育を展開します。

私たちは、社会環境の変化に柔軟に対応することで、これからも学生・生徒に選ばれ、地域社会と共に発展・成長していく高等教育機関を目指します。

私たちがブランドビジョンとして高らかに掲げた「宣言」を「実現」へとつなげ、社会からの期待に応えられるよう、「教育に情熱を」をスローガンに、教職員一丸となって取り組んでいく決意です。



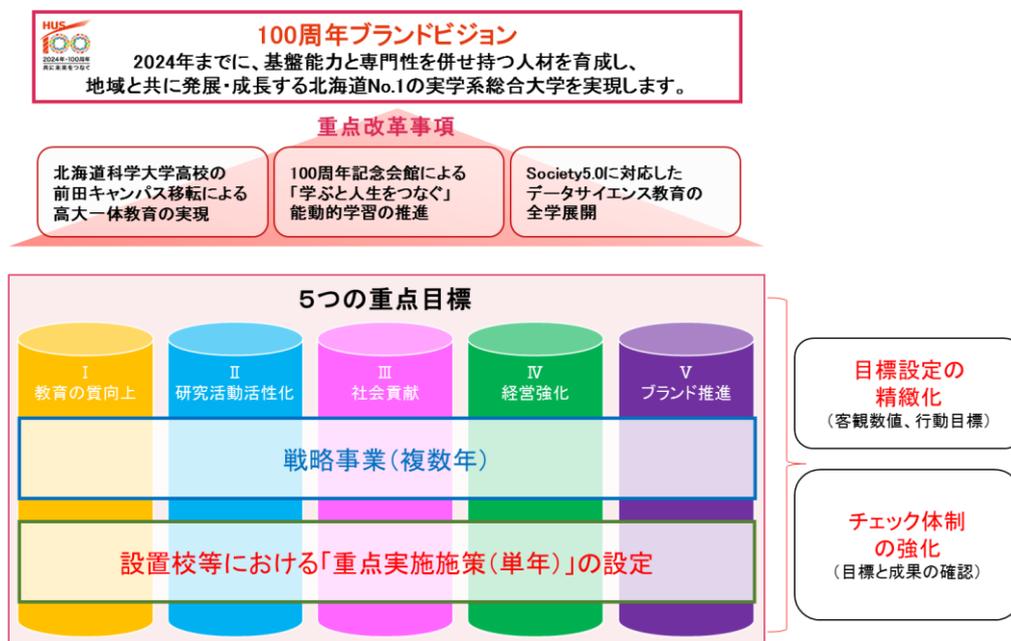
目次

1.中期事業計画及び事業計画	3
(1)第2期中期事業計画(2020-2024)について	3
(2)第2期中期事業計画(2020-2024)における5つの重点目標	3
(3)2023年度に取り組む主な事業(戦略事業及び重点実施施策)	4
【Ⅰ.教育の質向上】	5
【Ⅱ.研究活動活性化】	10
【Ⅲ.社会貢献】	12
【Ⅳ.経営強化】	14
【Ⅴ.ブランド推進】	16
2.施設整備計画	19
3.設備整備計画	20
4.学生生徒見込数	21
5.役員・評議員・教職員等の概要	24

1. 中期事業計画及び事業計画

(1) 第2期中期事業計画(2020-2024)について

法人創立100周年である2024年度に向けたブランドビジョンを実現するため、2020年度から5か年にわたる第2期中期事業計画を策定しました。



第2期中期事業計画概要図

100周年に向けた重点改革事項として、以下の事業を実施します。

- ・高校の前田キャンパス移転による高大一体教育の実現
- ・100周年記念会館による「学ぶと人生をつなぐ」能動的学習の推進
- ・Society5.0に対応したデータサイエンス教育の全学展開

上記に加え、法人及び各設置校が一丸となって取り組む「教育の質向上」をはじめとする5つの重点項目及び目標を定めており、2022年度からは5つの重点目標に基づく複数年事業である「戦略事業」に加え、設置校等における、第2期中期事業計画の目標に対する現状や課題等を整理し優先的に取り組む「重点実施施策」を策定し、目標設定の精緻化及びチェック体制の強化を行います。

(2) 第2期中期事業計画(2020-2024)における5つの重点目標

【I. 教育の質向上】

大学にあっては、建学の精神に謳われる「科学的市民の育成」により、複雑多様化、グローバル化が進展し、予測不可能な時代にあっても主体的に社会を支える人材を輩出します。

このため、「プロフェッショナル教育」の理念に基づいて、学修者本位の教育への転換を推進します。

高校にあっては、生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養の実現により、アドミッションやその後の高等教育に生かせる資質能力の育成を目標とします。

【Ⅱ. 研究活動活性化】

大学の特色を生かした、医・薬・工連携による学際的・学融合的研究の推進によるイノベーションの創出、社会還元を図ります。

【Ⅲ. 社会貢献】

地域社会の核として、産業界や地方公共団体とともに、北海道の高等教育の将来像や具体的な連携・交流方策について議論する「地域連携プラットフォーム」の構築を目指します。

【Ⅳ. 経営強化】

キャンパス再整備計画(第1期)の成果としての前田キャンパス移転、大学統合によるスケールメリット(共通の教育研究組織、事務部門の簡素・合理化等)を発揮し、運営コストを削減するとともに、限りある経営資源をⅠ.～Ⅲ.の重点領域に再配分及び集中的に投資します。

【Ⅴ. ブランド推進】

信条として掲げた「+Professional」「地域共育力」の旗印の下、100周年記念事業、ブランド推進活動、特色ある教育研究活動及び地域貢献活動等の個別の取組みを一貫したストーリーとして、以下のコンセプトに位置づけ、分かりやすく社会に発信し、認知度の向上を図ります。

- ・地域活性化に向けた取組み
- ・北海道の地域課題に対応、地域資源を生かした取組み
- ・本法人の歴史(レガシー)の創出・承継に向けた取組み

(3)2023年度に取り組む主な事業(戦略事業及び重点実施施策)

件数(2023年度)

重点目標	戦略事業	重点実施施策	合計
Ⅰ. 教育の質向上	15	5	20
Ⅱ. 研究活動活性化	2	3	5
Ⅲ. 社会貢献	3	4	7
Ⅳ. 経営強化	4	7	11
Ⅴ. ブランド推進	3	2	5
合計	27	21	48

【I. 教育の質向上】

重点目標

大学の基本理念「科学的市民の育成」、「プロフェッショナル教育の推進」を引き続き堅持し、学修者本位の教育への転換をより一層推進します。

高校にあっては、新学習指導要領に準拠した教育の展開により、アドミッションやその後の高等教育に生かせる資質能力の育成を目標とします。



数理・データサイエンス・AI 認定制度(リテラシーレベル)認定 ロゴ
(認定期限:2027年3月31日)

<戦略事業>

北海道科学大学(10件)

1	工学部による先進的データサイエンス教育の推進 【工学部】
---	---------------------------------

〔目標指標・数値〕「数理・データサイエンス・AI」基礎共通科目創設と全学科への講義展開、

IoT・AI・データサイエンス環境を構築する講義の整備と実施

Society5.0に対応し、地域社会の中心で活躍する人材育成のため、充実した「数理・データサイエンス・AI」教育を受けることができる環境を提供し、全ての学生が「数理・データサイエンス・AI」の素養を身につけます。また、第4次産業革命、Society5.0の中心技術である人工知能やセンサーからのデータ取得、時系列解析技術について実践をとおして総合的に学ぶ講義(実験)環境の整備を行い、これらの技術を習得し社会に貢献できる学生を育成します。

2	工学系教育環境の充実 【工学部】
---	---------------------

〔目標指標・数値〕AI及びビッグデータに関する教育の実行(情報工学科)

CIM時代に対応した特別プログラムの次期カリキュラムでの運用(都市環境学科)

情報工学科では「最新の知識・技術を身につける科目群」における実験環境整備並びに教材開発を目的としたPBL形式(課題解決型学習)で学ぶことのできる授業を実施します。また、都市環境学科ではCIM時代に対応した特別プログラムを展開し、次期カリキュラム改定時に正課の授業科目として取り入れることを目標に、講義・演習方法の検討を行います。

3	建築士国家試験対応 【工学部 建築学科】
---	---------------------------------

〔目標指標・数値〕建築士受験学修システムの構築

卒業生の1/3が一級建築士、2/3が二級建築士合格を実現する受験指導の最適化

建築士取得に優位な大学であることを地域社会が認めるようになることを目的とし、さらなる合格率向上のため、スマートフォン対応のWebアプリケーションを活用した建築士受験学修システムを構築し、受験指導に活用するとともに、受験指導の最適化を図るための改善検討を行います。

4	電気自動車に関わる電気電子技術教育の推進 【工学部 電気電子工学科】
---	---

〔目標指標・数値〕受講生に対する自動車業界への就職斡旋(内定者7名)

環境問題対策として、電気電子系技術者のニーズが高まる自動車業界に対応するため、電気自動車に関わる電気電子技術の教育環境を早期に整備し、自動車業界で活躍する人材を育成します。

5	保健医療学部の教育環境の充実 【保健医療学部】
---	------------------------------------

〔目標指標・数値〕診療放射線技師教育の改革と質の向上(診療放射線学科)

技師教育の改革と質の向上に取り組み、技師志望の意志が高い学生の掘り起こしのために、入試広報センターと連携して推薦入試の面接方法のあり方について検討します。

6	入学前から初年次教育を経て、卒業までの一貫した基礎学力強化プログラムの策定 【全学共通教育部】
---	--

〔目標指標・数値〕就職試験を視野に入れた基礎学力強化の教材の選定及び実施

一般選抜や推薦型選抜等の入試形態に関わらず、全入学生を対象とした初年次の基礎学力強化プログラムと就職試験までを考慮した継続的な学修支援体制を構築します。

7	教育系基幹システムの更新 【学生支援センター、就職支援センター、入試広報センター】
---	--

〔目標指標・数値〕入試・教務・就職データの一元化、全システムの稼働

教育系基幹システムの導入により、学生の入試、学生支援、就職の情報を一元管理するとともに、出欠状況及び成績表を保護者が確認可能となり、大学と双方から学生を見守る環境を構築することで「教育・学修の質」「学生サービス」の向上へ繋がります。

8	授業内外での学習支援、修学支援の充実 【学生支援センター】
---	--

〔目標指標・数値〕正課外学修サポートでのチューデント・アシスタント(SA)希望調査の実施

需要に対応した制度再設計、2023年度からの適用開始

学力差拡大に対応し「学生を主体とした教育」の充実のため、正課における授業指導支援の強化と正課外における学習支援の強化を行います。

9	新入生の図書館利用による能動的学習の促進 【学術情報センター】
---	--

〔目標指標・数値〕初年次教育科目における図書館利用による能動的学習を全学科で実施

図書館を活用し、大学での学びに必要な基本的スキルを身につけ、能動的に学修する力の養成を目的に、各学科で図書館の施設・資料を用いて回答を導き出す課題を与え、学修する取組みを行います。

10	アセスメント・ポリシーの実質化 【自己点検 IR 委員会】
----	--

〔目標指標・数値〕アセスメント・ポリシーの実質化に向けた自律的な点検改善サイクルの確立

2018年度に策定した学修成果の評価に関する方針であるアセスメント・ポリシーの実質化に向けて、学科(教育課程)、授業科目、学生それぞれの対象レベルに応じた評価手段を確立し、学科における自律的な点検改善サイクルが回る環境を構築します。

北海道科学大学高等学校(2件)

1	生徒の学力及び進路結果の向上
---	-----------------------

**〔目標指標・数値〕3年間のコース別指導体制・計画の策定及び取組みの可視化を図る中長期的な
教員研修計画の立案及び実施**

特別進学コースを中核とした3年間の計画的な指導体制(進学講習・進学イベント等)と計画を策定し、随時実施します。また、実力テスト・模試の分析を進路指導部・業者・学年会合同で行い、継続的な現状分析から計画的な指導を行います。

教員の資質向上のため、年間計画に基づく教員研修と新任研修を実施し、道内外の高大先進校視察や人事交流をとらして、ミドルリーダーとなる教員育成と資質向上を図ります。

2	移転を機会とする高大連携の一層の強化
---	---------------------------

**〔目標指標・数値〕HUS LINKS(高大が一体となって行う生徒サポートプログラムの総称)の
個別取組み内容の充実と外部発信の強化**

HUS LINKSの生徒サポートプログラムは、高大接続プロジェクト・総合的な探究の時間に関すること・短期留学・部活動・コンカレントプログラム等において、これまでの蓄積を発展させ、同じキャンパスである利点を活かし、さらに充実させます。また、その取組みをSNS等も活用、発信(年50回以上)し、プレスリリースを戦略的に行い、年間6回以上の報道・記事化を目指します。

北海道自動車学校(3件)

1	教習指導心得プロジェクト
---	---------------------

〔目標指標・数値〕教習指導心得プロジェクトにおける教習生アンケート回答(良)割合:95%

教習生が運転技術を修得しやすい教習指導方法や内容を検討し、自動車学校として指導方針等を前面に打ち出すことにより、指導員等職員全体の業務に対する意識の向上と方向性を定め、教習指導及び教育内容の強化を行います。

2	担当制の導入(研修所、他校訪問の実施含む)
---	------------------------------

〔目標指標・数値〕担当制における教習生アンケート回答(良)割合:90%

教習生に対する教習の質の向上を目的に、担当制の導入に向けた検討会及び実施事例調査の実施、担当制の教習生アンケート、入校者数の増減等による評価を行います。

3	学科教習改善
---	---------------

〔目標指標・数値〕若年層の向けの学科教習(DONDONドライブ)を導入し、学科教習において継続使用

若年層に向けた学科教習の改善及び他校との差別化を目指し、体験型学科教習教材「DONDONドライブ」を導入し、道路交通法等の理解力向上を図ります。

<重点実施施策>

学校法人北海道科学大学(1件)

1	高大接続プログラム(HUS LINKS)の発展と進学者数向上 【入試広報センター、北海道科学大学高等学校】
---	--

〔目標指標・数値〕高校3年生の系列校推薦進学者:100名、高校2年生のスクーリング参加者:150名

現行の系列校推薦の最終年度かつ高校2年生が系列校コースへ進むためのスクーリングを行う初年度となります。高大接続に資するプログラムを実施するとともに、高大教職員が連携した進路指導を行うことで内部進学者数の増加を図ります。

北海道科学大学(4件)

1	リメディアル教育の推進に係る制度設計 【学生支援センター】
---	--

〔目標指標・数値〕2023年度末に枠組みを定め、2024年度より実施

18歳人口の減少に伴う低学力層の入学生受け入れを踏まえ、大学教育プログラムを履修するための下支えとなる日本語読解力、高校数学、物理、化学を中心に、新たなリソースによるリメディアル教育の推進を目的として制度設計を行います。2024年度新カリキュラム施行時からの低学力層における学力の底上げを目指し、教育の質向上に寄与します。

2	高校移転に伴う学生生活、課外活動等のルール化の継続検討 【学生支援センター】
---	---

〔目標指標・数値〕2023年9月末までに両校で必要な内容を洗い出し、年内にルールを策定

2024年度から両校で実施

2023年度の高校の前田キャンパス移転に向け、事前に高校移転実施本部にて必要なルール作り(共同スペースや食堂利用等)を検討しました。その際に挙げられた、高校移転後も継続して検討すべき内容について、引き続き、大学・高校間で連携して協議を行います。

3	低学年からのキャリア教育の充実 【就職支援センター】
---	---------------------------------------

〔目標指標・数値〕1、2年生対象4回、全学年対象3回

学生の就職活動が年々早期化している現状を踏まえ、2024年度から学部1、2年生を対象としたキャリア教育の正課授業を実施する予定です。このことを踏まえ、今まで実施していたステップアップ講座を含めて内容を精査するとともに、特別講演として同内容を実施します。これにより、自己分析及び自己理解を促すことで、就職活動時のミスマッチを防ぎ、離職率低下に繋がります。

4	高校教員とのリレーション強化 【入試広報センター】
---	--------------------------------------

〔目標指標・数値〕イベント開催 1回以上、冊子作成、FAXによる情報発信 10回

道内高校を中心とした高校教員とのリレーション強化は、学生募集の向上及び2025年度入試改革の成功に向け非常に重要なこととなるため、情報発信及び対面コミュニケーションの強化策を実施します。

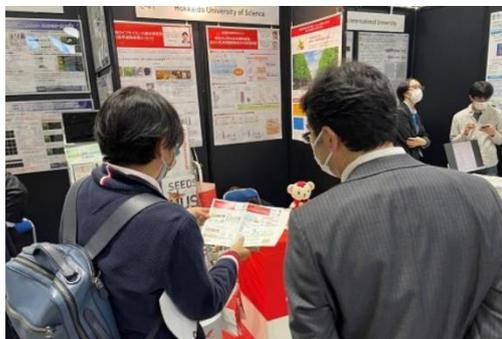
＜実施予定の施策＞

- ・ターゲット校への高校別情報誌作成と配布
- ・高校教員向けイベントの開催
- ・FAXによる情報発信

【Ⅱ. 研究活動活性化】

重点目標

大学の特色を生かした、医・薬・工連携による学際的・学融合的研究の推進によるイノベーションの創出、社会還元を図ります。



BioJapan2022出展時の様子



2022年度HUS学術研究交流会ポスター

<戦略事業>

北海道科学大学(2件)

1	新研究所(CRILS)の立ち上げと研究成果の持続的な創出・発信 【研究推進・地域連携センター】
---	--

【目標指標・数値】学会発表:年5回 論文掲載:年5報

本学5番目の研究所として2020年度に新設した北の大地ライフサイエンス創生研究所(CRILS)において、地域並びに国民の健康・福祉の増進に寄与することを目的に、研究成果を確実に創出・発信し続けます。

2	道内私大トップを目指す科研費獲得ロード 【研究推進・地域連携センター】
---	--

【目標指標・数値】科研費総採択件数:120件

「北海道No.1の実学系総合大学」を達成するためには、研究力の維持・向上が必要不可欠と考え、外部資金の需要と重要性が高まる昨今の情勢に鑑み、その指標となる「科研費」の採択実績の向上を目指します。

<重点実施施策>

北海道科学大学(3件)

1	学会・シンポジウム等の積極的な招致開催による情報発信 【研究推進・地域連携センター】
---	---

〔目標指標・数値〕件数:5件

教員の研究活動の一環である学会やシンポジウム等について、本学が開催費用を一部助成するなど積極的な招致開催を目指し、招致を通じて全国から研究者が来訪することで本学の研究・教育環境をアピールします。また、開催状況等をHPTピックスに積極的に掲載し、本学の活動を学内外へ広く発信します。

2	HUS 学術研究交流会開催による共同研究の促進 【研究推進・地域連携センター】
---	--

〔目標指標・数値〕2カ月に1回ペースで開催、マッチング件数5件

分野横断型の共同研究を推進するための「HUS学術研究交流会」が定着してきたことから、学外の研究機関の方にも講演いただくことを計画し、多彩な領域の研究内容を発信することで、研究の活性化を図ります。また、知的交流の機会を提供することで、新たな研究チームのマッチングを目指します。

3	研究及び社会実装を支援する制度の構築に向けた検討 【研究推進・地域連携センター】
---	---

〔目標指標・数値〕検討結果に応じ、2023年度内に規程を制定する

人的な研究・社会実装支援制度(リサーチ・アシスタント制度、バイアウト制度、クロスアポイントメント制度、ベンチャー支援体制など)の導入を検討し、本学において優先的かつ、実現可能な制度を洗い出します。

【Ⅲ. 社会貢献】

重点目標

地域社会の核として、産業界や地方公共団体とともに、北海道の高等教育の将来像や具体的な連携・交流方策について議論する「地域連携プラットフォーム」の構築を目指します。



2022年度ひらめき☆ときめきサイエンスの様子



2022年度公開講座の様子

<戦略事業>

北海道科学大学(3件)

1	地域医療への貢献を目指した道内地方都市における実務実習の推進 【薬学部実務実習委員会】
---	--

〔目標指標・数値〕プログラムを受けた学生の30%以上が地域医療に関わる

地域医療を支えることを目的に、北海道内の地方都市においてモデルケースとなるような地域医療実習のプログラムを施設と共同で作成し、学生の地域医療に関する理解を深め、地域医療に従事する薬剤師を増やすとともに、就職先が薬局に偏在している現状を改善します。

2	看護実践・教育・研究に関するユニフィケーション事業 【保健医療学部 看護学科】
---	--

〔目標指標・数値〕本学教員による教育・研修会の定期的開催年2回、臨床研修

看護学科と複数の医療・福祉施設が看護実践・教育・研究において連携・協働し、看護ケア及び看護教育の質の向上を図ることを目的に、教育・研修会の実施や臨床看護師の研究支援等を行います。

3	「自由研究といえば北科大」を目指す ～科学やものづくりの楽しさを伝え、未来の科学者を育てるイベント特化事業～ 【研究推進・地域連携センター】
---	--

〔目標指標・数値〕大学で実施するイベントにおける5年間の参加者計700名

研究・科学のおもしろさを伝えるため、これまで継続的に実施してきた日本学術振興会『ひらめき☆ときめきサイエンス』事業に加え、小学生を対象とした未来の科学者を育てるイベントを実施します。

<重点実施施策>

北海道科学大学(4件)

1	地域企業との連携強化 【就職支援センター】
---	----------------------------------

〔目標指標・数値〕道内就職率50%以上維持

コロナ禍において、厳しい就職状況となることが予想される中、景気に左右されることのない企業との関係を構築するため、現在連携している企業との繋がりを継続しつつ、札幌・石狩以外の道内地方都市との業界団体とも連携を行います。

2	連携自治体との新規事業の創出 【研究推進・地域連携センター】
---	---

〔目標指標・数値〕協定締結自治体から1件以上の共同研究獲得又は新規事業の開拓

各協定締結自治体とは、公開講座、まちづくり協力、有識者としての事業参加等を行っていますが、企業も含めた事業や共同研究を開拓し、外部資金の獲得や研究活動を外部にアピールします。

3	研究活動、成果の学外発信強化 【研究推進・地域連携センター】
---	---

〔目標指標・数値〕シリーズ講座の複数開催及び40講座以上の開催

研究活動及び研究成果を学外の方に興味を持ってもらうために、公開講座のシリーズ化を強化し、様々な分野との連携により、これからの北海道の未来に可能性を感じられる講座を開催します。また、地域における公開講座開催の定着に向けた連携を密にします。

4	職業実践力育成プログラム(BP)の開催 【薬剤師生涯学習センター】
---	--

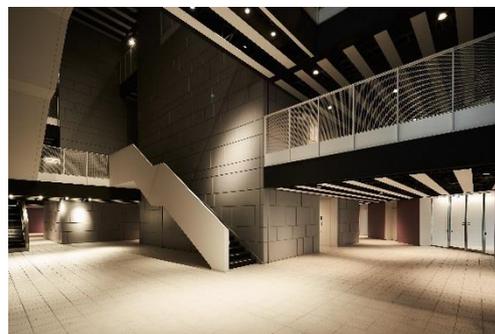
〔目標指標・数値〕受講者10名、履修証明書発行者3名

2023年度から開始する薬剤師を対象とした「職業実践力育成プログラム(BP)」を履修証明プログラムとして開催します。受講者には医療人としての能力、技術向上を目的に、本学教員及び外部実務家を講師として、社会人が参加しやすい体制を構築して開催します。

【IV. 経営強化】

重点目標

キャンパス再整備計画(第1期)の成果としての前田キャンパス移転、大学統合によるスケールメリット(共通の教育研究組織、事務部門の簡素・合理化等)を発揮し、運営コストを削減するとともに、限りある経営資源をⅠ.～Ⅲ.の重点領域に再配分及び集中的に投資します。



北海道科学大学高等学校の前田キャンパス新校舎

<戦略事業>

学校法人北海道科学大学(1件)

1	高大一体となった広報活動の充実 【事務局 入試・地域連携部、北海道科学大学高等学校】
---	---

〔目標指標・数値〕新聞100件以上、テレビ30件以上の掲載

日経BP調査における北科大の認知度を80%以上

北海道科学大学高等学校移転の社会認知向上と定員管理

高大連携、イベント等での魅力を発信

高校の移転により、今まで以上に生徒・学生及び教職員の活動を情報収集するとともに、全てのステークホルダーへのブランドイメージの浸透及びステークホルダーごとの広報戦略について検討し、多くの情報をメディア(大学プレスセンター含む)へプレスリリースします。

認知度の向上については、キービジュアルを活用した広報展開をするとともに高校移転に伴う高大一体教育の広報、創立100年周年を迎える本法人が北海道への貢献を行う姿を広報します。

北海道科学大学(1件)

1	前田キャンパスネットワークの環境維持 【学術情報センター】
---	--

〔目標指標・数値〕2023年8月一斉休業期間での機器更新を実施

2001年度より立ち上げた「モバイルキャンパス構想」による、講義・実習・演習を含めた、あらゆる教育・研究活動及び事務処理を円滑に進めるために安定したネットワーク環境を提供する。

北海道科学大学高等学校(1件)

1	通学用高校指定バスの運行
---	--------------

〔目標指標・数値〕乗車を希望する生徒数に沿った効率的な運行状況及び計画を

3ヵ月ごとに報告・検討する

高校移転に伴い、2023年4月より登校する生徒のための高校指定バスを運行し、路線バスの生徒乗り残し防止及び混雑の軽減を図ります。

北海道自動車学校(1件)

1	送迎バス位置情報システム導入
---	----------------

〔目標指標・数値〕送迎バス位置情報システム導入、継続使用

スマートフォン等で送迎バス運行状況を確認することできる送迎バス位置情報システム導入し、運転手及び職員の連絡等にかかる業務の軽減、教習生へのサービス向上を図ります。

<重点実施施策>

学校法人北海道科学大学(5件)

1	導入システム、アウトソーシングの状況整理を始めとした北科大 DX の推進 【政策室】
---	---

〔目標指標・数値〕導入システム、アウトソーシングの実態報告及び今後の在り方の提言

本法人内で採用しているシステム及びアウトソーシングについて一元的に情報集約を行い、実態を明らかにします。システム機能の重複や活用度の低さといった無駄がないかについての総点検をはじめ、北科大DXの在り方を提言します。

2	高大教職員のコミュニケーション促進 【事務局 総務部】
---	--------------------------------

〔目標指標・数値〕法人全体FD・SD研修会 年1回、部局・業務別研修会・情報交換会 年2～4回
合同行事(実施可能なものから)

年1回の実施を計画している法人全体FD・SD研修会の充実を図り、高大教職員の交流を促進します。新たに部局・業務別の情報交換の場を設けるとともに、全体会議として大学(大学関係部署及び該当センター)と高校の情報共有を3ヵ月に1回の頻度で定期的実施します。また、各種行事における交流や合同開催を進めるべく、各設置校の行事に関する情報の発信を行います。

3	人事考課制度の改正案策定 【事務局 人事企画室、教職員課】
---	----------------------------------

〔目標指標・数値〕2023年度内に具体的な案を提案する

数年間運用してきた人事考課制度について、組織の活性化や職員の能力向上、人材育成への貢献など、制度本来の趣旨に則った観点から制度全体の検証と、制度の運用方法、考課結果の処遇・配置への反映方法を検証し、必要な規程及び実施要領の改正を行います。

4	寄付金募集事業推進 【事務局 財務部】
---	--------------------------------

〔目標指標・数値〕100周年記念事業寄付金2021.6.1～2025.3.31

目標額5億円(うち2023年度1.6億円)

2021年6月から募集を開始した「法人創立100周年記念事業寄付金」は、2025年3月までに5億円を目標とします。ホームカミングデー、父母懇談会、就職懇談会などの行事開催案内において寄付募集を行い、寄付者の裾野を広げ、顕彰制度も確立させて、募集強化を図っていきます。

また、100周年記念事業実行委員会とタイアップし、より活発な活動を推進して目標額達成を目指します。

5	予算設計と執行管理の精度向上 【事務局 財務部】
---	-------------------------------------

〔目標指標・数値〕年2回(上半期、通期)の検証

2022年度決算の検証を行い、問題点を指摘して、2024年度予算の厳格化を図る

2022年度から予算編成を「計画(予算)と実績(執行)の一致」を目標に、事業ごとの予算執行状況の把握を行うことで、各部局における適正な予算規模の検証や各部局から提出された補正予算の計上項目ごとの検証をすることとしました。その結果をもとに、前年度実績における次年度予算編成に反映させ、予算編成の精度をより高めていきます。

北海道科学大学(1件)

1	100周年記念会館の利活用促進 【学術情報センター】
---	---------------------------------------

〔目標指標・数値〕HUSスタンダード科目や高校の探究学修等の正課での利用

卒論・修論発表、公開講座、大学見学会での模擬講義、オープンキャンパスなどを月1回程度行う

正課外での利用状況の把握、各スペースの運用方法の構築を行い、利用事例等の発信を年10回以上実施する

100周年記念会館に新たに整備されるプレゼンテーションラウンジ、AVホール、ワーキングスペース、プロジェクトルーム等の利用をとおして、生徒・学生の能動的・発展的学修の習慣化を促進します。学内の教育、研究に関する発表や地域住民を対象とした公開講座などを通じて、生徒・学生・地域住民の垣根を超え学び「共に未来をつなぐ」相互作用の場としての仕掛けを展開します。

北海道科学大学高等学校(1件)

1	着実な財務改善の進捗
---	-------------------

〔目標指標・数値〕財務改善計画について、四半期ごとに進捗状況の確認及び報告を会議にて実施

経常収支黒字の達成に向け、2027年度からの特待生制度の抜本的な改善及び人事施策の改善を行い、可能な改善は早期に手がけます。

【V. ブランド推進】

重点目標

信条として掲げた「+Professional」、「地域共育力」の旗印の下、100周年記念事業、ブランド推進活動、特色ある教育研究活動及び地域貢献活動等の個別の取組みを一貫したストーリーとして、以下のコンセプトに位置づけ、分かりやすく社会に発信し、認知度の向上を図ります。

- ・地域活性化に向けた取組み
- ・北海道の地域課題に対応、地域資源を生かした取組み
- ・本法人の歴史(レガシー)の創出・承継に向けた取組み



100周年記念会館



高大一体の広報展開に向けたキービジュアル

<戦略事業>

北海道科学大学(3件)

1	インフラ映えフォトコンテスト開催による認知度向上 【工学科 都市環境学科】
---	--

〔目標指標・数値〕入学生の認知度:50%

自然風景のみならず、市民活動や経済活動などあらゆる風景に映える社会基盤施設・設備を発見することで、土木分野への関心が醸成されることと学科広報や学生募集を目的に、インフラ映えフォトコンテストを実施します。

2	同窓生との連携強化 【事務局 校友課】
---	--------------------------------------

〔目標指標・数値〕総会参加数増加のための対策の実施、イベント、サービス等の実施(100周年)

HUS pedia作成に向けた企業への取材25件(前年含)、冊子100冊作成

同窓会総会行事における若年層会員の参加者数減少の改善及び同窓生の本学へのニーズを把握し、学内に周知することを目的に実施した同窓生対象のアンケート結果をもとに、関係部署と施策の検討(課題調査や分析)を行います。

また、同窓生間の交流イベント実施(異業種間交流会など)やそれらの情報を発信するなどのサービスを行うことで同窓会活動の活性化を図ります。

3	ホームページ全面リニューアルによる大学知名度及び利便性の向上 【入試広報センター】
---	--

〔目標指標・数値〕2022年ホームページ公開、稼働確認及び調整、アクセス解析

入試広報センターを中心に、最新のフレームを使用したビジュアル性、操作性が高いホームページを制作します。また、導入後も各ページを検証できる仕掛け、ランニングコストの軽減、運用負担の軽減、時代背景に柔軟に対応できるようなシステムとします。

<重点実施施策>

学校法人北海道科学大学(1件)

1	100周年記念事業の推進 【100周年記念事業実行委員会】
---	--

〔目標指標・数値〕4/8高校移転、記念会館お披露目式の実施、新規スモールアクション5件

100周年記念事業推進プロジェクトを中心に各事業における推進のスピードを上げます。2023年度は、高校移転、記念会館のお披露目式、2024年の本式典に向けて企画を具体化させ、社会への発信力を高めます。また、多くの教職員が100周年に関する企画に参加できるよう、スモールアクション企画を新たに立ち上げます。

北海道科学大学(1件)

1	HUSスタンダード広報によるブランディング推進 【入試広報センター】
---	---

〔目標指標・数値〕HP特設ページ作成、オープンキャンパスでの広報企画実施、
高校訪問での関心度調査実施

2024年度よりスタートするHUSスタンダードをHPや各種媒体、イベントにおいて積極的に広報を行い、+Professional教育のブランド強化を図ります。

<実施予定の施策>

- ・HPに特設ページを作成
- ・オープンキャンパスでのPR施策の実施
- ・入学案内、各種媒体での特集企画
- ・高校教員向けツールやイベントでの情報発信

2.施設整備計画

主な工事計画は、以下のとおりです。

工 事 名	
<学校法人北海道科学大学> ・中の島キャンパス 北海道科学大学高等学校校舎解体	全棟
<北海道科学大学> ・桜新植工事	一式
<北海道科学大学高等学校> ・テニスコート照明	2/10面分
<北海道自動車学校> ・場内教習コース照明更新工事	1塔

3.設備整備計画

(1)教育研究用機器備品

各設置校における教育研究充実のため、機器の更新及び機械器具を購入します。

購入数量	268点
------	------

主な購入品目は、以下のとおりです。

件 名	
<北海道科学大学> ・X線撮影ポジショニングドール ・顕微鏡	1点 1点
<北海道科学大学高等学校> ・什器	1点

(2)管理用機器備品

各設置校の機器の更新及び管理用備品を購入します。

購入数量	30点
------	-----

(3)図書等

各設置校の図書等を以下のとおり購入します。

設 置 校 名	図書	学術 雑誌	(冊)		
			電子ジ ャーナ ル	デー タ ベ ース	視 聴 覚 関 係
北海道科学大学	1,020	102	5,583	10	0

(4)車両

各設置校の車両を以下のとおり購入します。

<北海道自動車学校> ・教習用自動二輪	1台
------------------------	----

4. 学生生徒見込数

※2023年度予算編成人数

＜北海道科学大学＞

(学部)

学部名	学科名	入学定員	収容定員	学生数						
				1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
工学部	機械工学科	92	368	93	85	108	91			377
	情報工学科	90	360	91	91	79	96			357
	電気電子工学科	80	320	81	115	87	116			399
	建築学科	80	320	81	100	78	72			331
	都市環境学科	50	200	52	46	45	50			193
薬学部	薬学科	180	1,120	186	205	146	186	179	213	1,115
保健医療学部	看護学科	90	330	93	96	94	80			363
	理学療法学科	50	170	53	63	49	40			205
	義肢装具学科	30	180	32	29	27	27			115
	臨床工学科	70	280	73	79	67	72			291
	診療放射線学科	50	200	52	63	48	68			231
未来デザイン学部	メディアデザイン学科	80	320	81	136	81	98			396
	人間社会学科	50	200	50	57	55	51			213
計		992	4,368	1,018	1,165	964	1,047	179	213	4,586

(大学院)

研究科名	専攻名	入学定員	収容定員	学生数					
				1年	2年	3年	4年	計	
工学研究科	修士課程	機械工学専攻	5	10	5	1			6
		電気電子工学専攻	4	8	4	3			7
		情報工学専攻	4	8	4	1			5
		建築学専攻	4	8	4	5			9
		都市環境学専攻	4	8	4	0			4
	計	21	42	21	10			31	
	博士後期課程	工学専攻	6	18	6	3	0		9
		計	6	18	6	3	0		9
薬学研究科	博士課程	臨床薬学専攻	3	12	3	2	1	2	8
		計	3	12	3	2	1	2	8
保健医療学研究科	修士課程	看護学専攻	5	10	5	11			16
		リハビリテーション科学専攻	4	8	4	3			7
		医療技術学専攻	4	8	4	4			8
		計	13	26	13	18			31
	博士後期課程	保健医療学専攻	3	9	3	0	5		8
		計	3	9	3	0	5		8
計		46	107	46	33	6	2	87	

(専攻科)

専攻科名	入学定員	収容定員	学生数	
			1年	計
公衆衛生看護学専攻科	8	8	8	8
計	8	8	8	8

<北海道科学大学高等学校>

学科名	入学定員	収容定員	生徒数			
			1年	2年	3年	計
普通科	300	900	300	350	370	1020
計	300	900	300	350	370	1020

<北海道自動車学校>

科名	種別	教習時間	教習生数
本科 (公安委員会指定)	普通一種	34	1,400
	準中型	41	20
	大型特殊	12	25
	大型二輪	36	40
	普通二輪 (400cc以下)	19	80
	普通二輪限定 (125cc以下)	12	10
計			1,575

5.役員・評議員・教職員等の概要

(1) 役員・評議員（2023年3月1日現在）

理事・監事・評議員の別	常勤・非常勤の別	定員数	人数	計
理事 (兼評議員)	常勤	10~21	8	14
	非常勤		6	
監事	常勤	2~4	1	2
	非常勤		1	
評議員 (理事含)	常勤	24~48	20	35
	非常勤		15	

(2) 教職員 ※2023年度予算編成人数(事務職員は部門別配分前)

職種		所属	人数
教育系職員	教員	北海道科学大学	242
		北海道科学大学高等学校	54
		北海道自動車学校	28
	技術員	北海道科学大学	3
		計	327
事務職員(契約職員を含む)	北海道科学大学(政策室、内部監査室を含む)		127
	北海道科学大学高等学校		10
	北海道自動車学校		6
	計		143
収益事業職員	薬剤師	北海道科学大学附属薬局	2
	事務員		3
	計		5
合計			475



2024年・100周年

共に未来をつなぐ